

## 社会学部報

大阪府立大学社会福祉学部教授

「ノーマリゼーションについて」

## ◇学部講演会および研究会

- 1995年10月9日(学部講演会)  
講師 ピエール・アンサール氏  
パリ大学名誉教授  
「政治のことばとメディアのことば」
- 1995年10月9日(研究会特別例会)  
講師 ピエール・アンサール氏  
パリ大学名誉教授  
「フランスにおける高齢化問題の現状」
- 1995年10月16日(学部講演会)〔キリスト教主義教育研究室・神学部との共催〕  
講師 フィリップ・セリエ氏  
パリ・ソルボンヌ大学教授  
「ヨーロッパ精神史の流れ—17世紀フランス文化における聖アウグスチヌス—」
- 1995年10月16日(研究会特別例会)〔キリスト教主義教育研究室・神学部との共催〕  
講師 フィリップ・セリエ氏  
パリ・ソルボンヌ大学教授  
「パスカルと聖アウグスチヌス—哲学と人間学—」
- 1995年10月25日(研究会例会)  
講師 藤戸 淑子氏  
社会学部教授  
「上級日本語学習者の誤用例についての一考察」
- 1995年11月29日(研究会例会)  
講師 田中 耕一氏  
社会学部助教授  
「コミュニケーションにパラドクスはあるか?」
- 1995年12月6日(研究会例会)  
講師 倉田和四生氏  
社会学部教授  
「アメリカ、カナダ、イギリスの大学を訪ねて—エスニック問題の資料を求め—」

## ◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1995年11月10日(人権講演会)  
講師 定藤 丈弘氏(本学出身)

## ◇海外出張

- 荒川 義子 教授  
8月17日から26日まで  
日米被災地を結ぶともだちの旅(NGO 連絡協議会主催)のアドバイザーとして同行し、ロスアンジェルスでの現地調査及び資料収集のため、アメリカへ
- 宮田 満雄 教授  
9月19日から23日まで  
同窓会支部総会出席のため、シンガポール及びインドネシアへ
- 鳥越 皓之 教授  
10月26日から28日まで  
韓国慶尚大学校日本文化研究所にて記念講演のため、韓国へ
- 川久保 美智子 助教授  
10月30日から11月8日まで  
アジア社会学会への出席および発表のため中国へ
- 船本 弘毅 教授  
1月11日から13日まで  
韓国キリスト教学校連盟及び韓国キリスト教大学連合の総会において基調講演を行い、また今後の韓国と日本のキリスト教学校の提携について討議するため、韓国へ
- 荻野 昌弘 助教授  
3月17日から4月16日まで  
雲南省における少数民族の調査のため、中国へ
- 船本 弘毅 教授  
4月25日から28日まで  
ACUCA(アジアキリスト教大学連盟)総会に出席するため、韓国へ
- 山路 勝彦 教授  
3月27日から31日まで  
インドネシアでの人類学的調査のため、インドネシアへ

## ◇新刊書紹介

- 津金澤 聰廣 教授(共編)

「現代メディアを学ぶ人のために」

世界思想社 1995, 7

- 倉田 和四生 教授(分担執筆)  
「比較文化論—異文化の理解—」  
世界思想社 1995, 9
- 真鍋 一史 教授(分担執筆)  
「アジアのなかの日本と中国」  
—友好と摩擦の現代史—  
山川出版社 1995, 10
- 三浦 耕吉郎 専任講師(分担執筆)  
「語りのちから」  
—被差別部落の生活史から  
弘文堂 1995, 11
- 芝野 松次郎 教授(分担執筆)  
「臨床心理学」—原理・理論—  
創元社 1995, 10
- 高田真治教授・芝野松次郎教授(分担執筆)  
「社会福祉概論」—これからの社会福祉—  
有斐閣 1995, 10
- 荒川 義子 教授(共訳)  
「メンタルヘルスハンドブック」  
—効果的援助のための13章—  
柘植書房 1995, 11
- 浅野 仁 教授(共訳)  
「日本政府と高齢化社会」  
—政策転換の理論と検証—  
中央法規 1995, 8
- 荻野 昌弘 助教授(分担執筆)  
「社会学の世界」  
八千代出版 1995, 12
- 立木 茂雄 助教授(分担執筆)  
「被災者の心のケア」  
(現代のエスプリ別冊)  
至文堂 1996, 2

## 学 会 消 息

### ◇情報通信学会

- 情報通信学会関西支部の合同研究会「高度情報化と視聴覚メディアの大衆化——マルチメディアとしてのカラオケを中心に——」は、1995年3月17日にメルパルク大阪におい

てパネル討論の形式で開催された。本学部からは津金澤聡廣教授が企画ならびに司会担当として、パネリストのひとりとして立木茂雄助教授(非会員)が参加した。

また、平成7年度(第12回)情報通信学会大会が6月16日、17日両日慶応義塾大学三田キャンパスにおいて開催された。シンポジウムI「阪神・淡路大震災と情報通信」では、津金澤聡廣教授が企画ならびにコーディネーターとして参加、またパネリストとして立木茂雄助教授(非会員)が、本学における救援ボランティア活動の実践を踏まえて報告を行い、討論に参加した。

なお、1995年度の関西支部副支部長に津金澤教授が選任され、真鍋一史教授(主査)と共に関西支部における研究会活動の企画・運営を推進した。その一環として、第4回研究会が11月21日に電通関西支社において開催され、雄山真弓本学情報処理センター教授の報告「大学における情報化の現状と課題」において、津金澤聡廣・真鍋一史教授両名が司会を担当した。

### ◇日本広報学会

- コーポレート・コミュニケーションについての学際的研究を目的に1995年3月24日、日本広報学会(会長・関本忠弘日本電気㈱取締役会長、理事長・富塚文太郎東京経済大学学長)が経団連会館(東京)において設立され発足した。その設立総会において、本学部津金澤聡廣教授は理事に選任され、組織委員会担当となった。第一回日本広報学会研究発表大会は、1996年3月29、30日両日東京経済大学で開催され津金澤聡廣教授が出席の予定。関西における研究会は津金澤聡廣教授を主査とする「阪神・淡路大震災における企業の危機管理」研究会が発足し'96年3月15日に関電会館において第一回研究会を開催。津金澤聡廣教授が「阪神大震災における企業の危機管理に学ぶ」というテーマで報告を行い、同時に関西在住の会員相互の交流・親睦を深めた。

なお、本学の日本広報学会会員は'96年3月末現在、津金澤聡廣教授、真鍋一史教授、芝

田正夫教授と川久保美智子助教授の4名である。学内外の方々の参加をこの機会に広く呼びかけた。OBで企業広報関係者は是非日本広報学会へ入会下さい。〈連絡は津金澤聡廣教授まで〉

#### ◇日本社会学会

- 荻野昌弘助教授は、1995年9月23日（土）、24日（日）の両日、東京都立大学においてテーマセッション「阪神・淡路大震災を考える」で、「ある集合住宅の現在史—阪神大震災の後遺症—」と題する報告を行った。

#### ◇日仏学術シンポジウム

- 第7回日仏学術シンポジウム社会学部門が10月2日（月）、3日（火）の両日、日仏会館で開催された。シンポジウムのテーマは「高齢化社会における生活の質」で、本学から荻野昌弘助教授が参加し、司会をつとめた。

#### ◇日本マス・コミュニケーション学会

- 日本マス・コミュニケーション学会の1995年度秋季研究発表会が10月21日（土）尚美学園短期大学において開催された。本学からは津金沢聡廣教授、真鍋一史教授、石川明教授、芝田正夫教授が出席し、さまざまな形で学会活動に関わった。なお1995年度学会運営体制として、真鍋一史教授は国際交流委員会副委員長（担当理事）、石川明教授は企画委員会委員をそれぞれ担当することになった。

#### ◇日本広告学会

- 日本広告学会全国研究大会が1995年11月10日（金）、11日（土）の両日、関西大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、統一論題のセッションで「広告メディアの現在形」と題する研究発表を行なった。

#### ◇日本世論調査協会研究大会

- 平成7年度の日本世論調査協会研究大会が11月24日（金）、中央大学駿河台記念館で開催された。本学からは、真鍋一史教授が出席し、「近代化とポスト近代化——R. Inglehart『世

界価値観調査データ』による検証——」というテーマで研究報告を行なった。

#### ◇国立国語研究所言語政策研究会

- 1996年2月23日（金）、国立国語研究所主催の第8回言語政策研究会が開催された。今回は「言語政策研究の可能性」というテーマで、シンポジウムの形式で行なわれた。本学からは真鍋一史教授、藤戸淑子教授が出席し、真鍋一史教授は発題者の一人として、社会学の立場からの問題提起をし、討論を展開した。因みにもう一人の発題者は、社会言語学の立場からで、東京外国語大学の井上史雄教授であった。

執筆 者 紹 介 (掲載順)

ビエール・アンサール	パリ第七大学名誉教授	荻野昌弘	関西学院大学助教授
斉藤悦則	鹿児島県立短期大学教授	森真一	関西学院大学大学院 社会学研究科 研究員
小関藤一郎	関西学院大学名誉教授	田並尚恵	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程後期課程
倉田和四生	関西学院大学教授	神野賢治	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程前期課程
村川満	関西学院大学教授	河村裕之	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程前期課程
高田真治	関西学院大学教授	山室敦嗣	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程前期課程
真鍋一史	関西学院大学教授	赤坂真人	関西学院大学大学院 社会学研究科 研究員
川久保美智子	関西学院大学助教授	中西秀一郎	関西学院大学名誉教授
張凡	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程後期課程	西山美瑛子	関西学院大学教授
浅野仁	関西学院大学教授		

社会学部研究会会員

<b>会 長</b>	牧 正 英				
<b>運 営 委 員</b>	森 川 甫	津金 沢 聡 廣	西 山 美 瑛 子		
	荒 川 義 子	宮 原 浩 二 郎	三 浦 耕 吉 郎		
<b>会 計 監 査</b>	中 山 慶 一 郎	宮 田 満 雄			
<b>書 記</b>	土 屋 明 生				
<b>名 誉 会 員</b>	本 出 祐 之	半 田 一 吉	J. A. ジョイス		
	小 関 藤 一 郎	萬 成 博	中 野 秀 一 郎		
	西 尾 朗	岡 村 重 夫	領 家 穰		
	嶋 田 津 矢 子	杉 原 方	清 水 盛 光		
	田 中 國 夫				
	(A. B. C 順)				
<b>普 通 会 員</b>	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫	武 田 建		
	牧 正 英	佐々木 薫	森 川 甫		
	張 光 夫	中 山 慶 一 郎	宮 田 満 雄		
	船 本 弘 毅	津金 澤 聡 廣	春 名 純 人		
	紺 田 千 登 史	村 川 満 彦	西 山 美 瑛 子		
	真 鍋 一 史	山 路 勝 彦	山 本 剛 郎		
	高 田 眞 治	鳥 越 皓 之	荒 川 義 子		
	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁	高 坂 健 次		
	石 川 明	對 馬 路 人	芝 田 正 夫		
	芝 野 松 次 郎	藤 原 武 弘	宮 原 浩 二 郎		
	藤 戸 淑 子	立 木 茂 雄	A. ブレイディ		
	川 久 保 美 智 子	荻 野 昌 弘	田 中 耕 一		
	三 浦 耕 吉 郎	谷 直 子			

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

## 第5章 総 会

第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

## 第6章 会 計

第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

## 付 則

第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。

## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞(安田賞)受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版(トレース、写植代)は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。

- ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。

10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

「社会学部紀要」第74号をお届け致します。昨年10月秋学期が始まると共に、ピエール・アンサール、パリ大学名誉教授とフィリップ・セリエ、パリ・ソルボンヌ大学教授をそれぞれお迎えして、学部講演会、研究会特別例会を各2回開催し、また続いて、研究会例会も3回持つことができました。この号には、ピエール・アンサール教授の講演を収録致しました。訳稿を届けて下さった鹿児島県立短期大学の斉藤悦則教授に厚く御礼申し上げます。今回の号は阪神大震災関連の共同論文や資料も加わり、大変多彩で豊かな内容になりました。論文、研究ノート、資料を寄稿して下さった会員の方々に厚く感謝致します。「紀要」の活性化を推進するため、次号から書評欄を設ける予定です。ご協力、ご支援をお願い致します。

前回同様、「紀要」の編集発行のため、速水幸一主任、湯原陽里香主事に大変お世話になりました。湯原主事は細心の配慮をもって編集実務を果たして下さいました。大変有り難うございました。  
(森川)

1996年3月1日 印刷

1996年3月10日 発行

編集発行人 牧 正 英

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話 (06)494-1122(代)



**KWANSEI GAKUIN**  
**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 74

March 1996

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---